

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100304		
法人名	医療法人 大分朋友会		
事業所名	グループホーム ほうゆう		
所在地	大分市大字下宗方字櫛引258番地		
自己評価作成日	令和6年8月25日	評価結果市町村受理日	令和6年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyouCd=4490100304-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三差評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府番館 1F
訪問調査日	令和6年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍にあり、外部からのボランティア受入を行っていません。その為、入居者様の余暇活動は職員が主導となりイベントの企画運営を行っています。当施設で一番の行事は夏祭りとなっており、入居者様にも大変喜ばれております。

昼食を2回/週手作りして提供しています。手作りの雰囲気が入居者様の食事摂取量やリアクションは通常より良く好評です。

季節毎に掲示を変え、室内にいても季節を感じることが出来るような掲示を行っています。

毎月ご家族に近況報告として写真と担当からのコメントを添えて郵送しています。2ヶ月に一度広報誌を発行し、同様にご家族と自治会に配布しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体医療機関に隣接して建てられおり、職員研修・合同避難訓練等法人内の協力体制が築かれています。毎月の回診や健康診断・リハビリ・その他緊急時を含め24時間医療体制が整っており、利用者・家族の安心と信頼に繋がっています。コロナ禍により、家族の面会も制限がある中、毎月の家族への報告書にホームでの様子を写真と担当職員の報告を含めお便りを送付しており、家族で共有できるとのことで感謝の声も聞かれます。ホールでは季節ごとに様々な行事や飾り付けをするとともにいつも利用者の折々の様子をパネルに掲示しており、大変気持ちが良いと訪れる家族に好評です。地域交流に関しては、中学生の職場体験を受け入れた際、生徒より感謝の手紙が送られ、玄関に掲示しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実施出来ている	「利用者が家庭的で明るい雰囲気の中～」を理念とし、玄関やパンフレットに掲示しており、法人内研修や事業所の勉強会等で理念について説明し、管理者と職員は共有と日々の中で話し合い実践に繋がっています。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり、関係性は希薄となってきたが、運営推進等の交流の場を活用し徐々に地域との関係性を再構築している。	コロナ禍(5類に移行)であり、地域の方や利用者との直接交流はまだ行っていません。運営推進会議や地域ネットワーク会議等で地域との交流を図り、今できる地域との付き合いを行っています。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にあり外部との交流を中止している。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎にグループホームの近況報告と参加メンバーからの意見収集を行い、グループホームの運営にフィードバックを行っている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に自治会長・民生委員・地域包括支援センター・家族代表・施設長・管理者で参集し、開催しています。事前に参加者よりアンケートを頂き会議の中で検討し、サービスの質の向上に活かしています。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿福祉課の担当者と面談を持ち、不明点等の問い合わせがスムーズに行えるよう関係性を築いている。	運営推進会議時の意見交換や窓口に出向いての相談で、市の担当者や地域包括支援センターの職員とは連携を取っています。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針を設け、委員会の設置と勉強会を実施し施設全体で身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	指針は法人が作成し、法人と事業所で委員会を設置し、法人全体及び事業所の研修を年4回開催しています。研修では(失礼のない、敬意を持った言葉に心掛ける)をテーマに、全職員で「身体拘束廃止・虐待防止」に取り組んでいます。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	指針を設け、委員会の設置と勉強会を実施し高齢者虐待防止を徹底している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施出来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施出来ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実施出来ている	利用者の要望は日常の会話の中で把握し、家族の意見・要望も多く、面会時や電話で忌憚のない声が寄せられています。その中で面会方法について要望があり、相談において早く円滑に解決出来るよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	実施出来ている	日頃より、職員の意見や要望等述べやすい環境作りを行い、早い問題解決に努めています。研修の取り組みとして、法人内研修では、実践経験のある方に研修を依頼し職員自身の意欲や自己研鑽に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実施出来ている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施出来ている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換を軸に他事業所とも交流を持っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人から聴き取りを行い、ケアプランに反映させている。まずは安心して施設生活を送ることが出来る関係づくりに注力している。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族から聴き取りを行い、ケアプランに反映させている。まずは安心して施設生活を送ることが出来る関係づくりに注力している。また、面会支援等も行い本人と家族の関係維持にも配慮を行っている。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1か月を目安に必要なであろうケアを見極め、ケアプランに反映させている。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何気ない会話等で、一歩引いた対等な関係を築き、信頼関係の構築に注力している。			
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の現状を共有し、必要なケアや医療等を提供出来るように関係作りに注力している。			
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソンを軸に本人を取り巻く人間関係の維持支援を行っている。	現在はコロナ禍により、馴染みの方の面会は難しくなっており、家族の協力を得て連絡・電話・手紙でのやり取りをしたり、今後も継続支援に努めています。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良し悪しを把握して、適切な距離の構築を支援している。			
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせや連絡があれば応答し、関係性を維持している。			

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の為汲み取りが困難の事が多いが、様々な視点から本人にとって必要と思われるケアを検討し提供している。	入浴時や夜間帯は、職員とゆっくり話す場面があり、意図的に思いや願い等今後の暮らし方を知る機会としています。家族の情報も大切なため情報共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から聴き取りを行い把握に注力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をこまめにとり、情報を共有することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を実施し、現状に即したケアを実施している。	利用者・家族・担当職員等の関係者と話す中で、把握されたニーズを担当者会議で検討し、プランに反映させています。モニタリング・カンファレンスを行い、6ヶ月毎の見直しと状態変化に応じて見直しを行い、現状に即したプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	こまめな記録を行い、口頭伝達も含め情報共有に注力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本当に必要なケアを追求し、実現に向け柔軟に対応することでサービスの多様化へ対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部事業所を活用し、日々生活に刺激を持ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時連絡を取り合い指示を仰ぎ、必要な医療を提供出来ている。	毎週木曜日、事業所の医師による診療を行い体調変化による利用者の希望があれば、これまでのかかりつけ医への受診を、家族と話し合いを持ち、連れて行って頂いています。年に一度健康診断を行い、体調の変化に対応出来る支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の窓口として看護職員を配置。日々の生活上医療面での支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて家族内での意思統一を早い段階で依頼している。また、入居の段階での意思確認等要所所で意思確認を行っている。それらを踏まえ、事業所内での情報共有を行い必要と思われる支援を提供している。	入所時に、終末期における看取り対応の意思確認をしています。重度化から終末期を迎えた時は、親族間の意思統一を口頭で確認し、事業所内で出来る支援を医師から説明し、個室内で家族が看取りを希望する場合は、受け入れて事業所で出来る限りの支援を全職員で行っています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員となると経験の浅い職員には難しい判断となる為、経験がある程度ある職員に判断を仰ぎよう指示している。また、判断力育成の為些細なことでも報告を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期で避難訓練を行っており、全職員へ周知している。また、マニュアルの整備も行っている。	防災訓練は、年に2回事業所全体で行っており火災のリスクをなくす為のBCP対策を実施し、地震災害への対応も被害を最小限にとどめる為、自衛消防隊を編成し防火管理者のもと防火訓練・基本訓練を行っています。	窓ガラス破損による外部からの危険が生じた事例から、今後の対策について、いつ起きるか分からないという緊張感をもって、安全対策を検討することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	壁を作り過ぎない程度の距離感を持ち、尊厳を守った対応を行っている。定期的に勉強会を行っており意識付けを行っている。	フラットな状態での利用者の様子を見る事で、親しい友達感覚で交流が持てるよう関係づくりに努め、介護のプロとして利用者の尊厳を守り、より良い接遇が出来るように気持ちにゆとりを持って支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症出現の仕様で、自己決定が難しい方もいるため、家族の意思をくみ取れるよう関係づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールは詰め込み過ぎず、入居者のペースに合わせた日常を過ごして頂いている。ニーズが汲み取れた場合は実現に向け職員間で協議し、家族に協力を仰ぎ実現に向け働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	メイクやパーマ等身だしなみを整える機会は家族に協力を仰ぎ積極的に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADL状況によるが、お盆の拭き上げやテーブル拭きなど職員と一緒に出来る範囲で行っている。	利用者が、役割の一環として楽しんで手伝って頂けるよう食事の時間に、おぼんやテーブル拭きをして頂いています。食器等も自宅で使用していたような、食べやすい普通の器で自分のペースで食べて頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要最低量を確保しつつ、嗜好や摂取可能量に合わせ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本は自身で口腔ケアを行って頂くが、必要に応じて職員がケアを行っている。マウスウォッシュを活用し口臭対策を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、失禁や皮膚トラブルの防止に努めている。	失禁しないように、時間を決めて様子を見ながらトイレ誘導しています。排便がない日が続く時は、医師の指示のもと薬の使用・看護師による対応・食事による便秘対策等で支援に努めています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護現場で実現可能なことは看護師と相談時実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	集団生活の性質上個々の希望時間での入浴実現は困難なため、入浴を気持ちよく行えるよう支援している。	入浴は週2回、利用者の希望で拒否の時は理由を聞き、思いを尊重し時間や日にちを変えたり、入浴剤を使用したり・好みの湯加減に調整するなどし、同性介助はしていませんがプライバシー保護に努めた入浴介助をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調に合わせて臥床時間を設けるなど、臨機応変に対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服薬を各自把握し、看護師の指示のもと与薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族に協力依頼して、嗜好品等の手配を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍にあり外出は基本行っていない。仮に家族と外出する場合は直行直帰をお願いしている。	コロナ禍の為、レクリエーション目的の外出は出来ませんが、家族との外出は直行直帰をお願いしています。施設の周りの稲刈りの様子を、散歩しながら見るがあります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない入居者がほとんどである為、金銭の持ち込みはお断りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力的に電話をかけることが難しい為、家族から入電あれば繋げて会話の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、掲示や室温管理など居心地の良い環境を整えている。	終日エアコン使用で、外気入れ替えや温度管理に注意して、ゆっくりと居心地よく過ごして頂けるよう、テーブルや畳コーナーも工夫して設置しています。健康維持のため、食事前のリハビリ体操やテレビのニュースを見て、一緒に楽しい会話をする共用空間となるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル配置を考慮し、会話が楽しめるような配置を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向は汲み取れないことが多い為、生活の利便性を考え家具やベッドを配置している。	基本的に個室の家具は全て持込みで、何も制限はせず馴染みの物を自由に使えるようにしています。見守りしやすく、安全に配慮した部屋で、利用者が居心地よくゆっくりと過ごして頂ける部屋となる支援に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計、手すりの配置等、安全かつ自立した生活を送ることが出来る設備設計を行っている。		